

2023年3月23日

## 2022年の中朝貿易

(北東アジア情勢研究会コメンタリーNo. 9)

霞山会主任研究員

堀田幸裕

### 1. 全般的動向ー中国から北朝鮮への輸出品

2022年の中朝貿易はコロナ禍の3年間で最も大きな貿易額を記録した。中国から北朝鮮への輸出額は前年同期比で約3.5倍と大きく伸びている。中朝貿易の取引額について、ジャンル別に見ると別表の通りである<sup>(i)</sup>。

コロナ以降、中朝貿易における物資の輸送は海運にほぼ限定されていたものの、中国・丹東から北朝鮮・新義州を結ぶ貨物列車の運行が約2年ぶりに2022年1月17日から再開された。その後、丹東市ならびに北朝鮮での新型コロナウイルスの感染拡大を受け、4月下旬に列車運行は一時中断されたものの、9月26日に再開されている。

このように部分的ではあるが、中朝間の物流が回復しつつあることも、2022年の貿易量が増した原因だと考えられる。ただし陸路のトラックによる貨物運輸は、2023年2月末現在も吉林省・琿春から北朝鮮・羅先に向かう圈河通商口のトラック通行が限定的に再開されたことが伝えられているが、中朝貿易の大動脈である丹東から新義州へのトラック通行は相変わらず停止したままのよう<sup>(ii)</sup>。

中国から北朝鮮に輸出されている品目分野について取引額ベースの割合で見ると、全体の20%を占めるプラスチック、ゴム(HS39-40類)がトップとなる。具体的な商品では、「バスまたは貨物自動車用のゴム製タイヤ HS40112000」が2877万2231ドルと最も取引額が大きい。

また食品関係の品目分野となるHS01-22類の取引額を合算すると1億8584万1455ドルとなり、全体輸出額のうち20.8%を占める。そして19.3%を占めるのが化学工業製品(HS28-38類)分野だが、個別商品としては「医薬品 HS30049090」が2251万568ドル(前年同期1151万2070ドル)と金額ベースで最多となっている。

なお、医療製品に目を向けると、科学・精密機器(HS90-92類)では、金額上位の二つが「注射器 HS90183100」の118万7005ドル(前年同期34万6823ドル)と「注射針、導管、挿管等 HS90183900」の114万5211ドル(前年同期30万9734ドル)である。また、他に医療関係では「マスク HS63079010」が100万3262ドル(3266万480個)となっている。

2021年統計では「HS6301から6307までの未登録品目」という項目があったもののマスクだとは明記されておらず、2022年1月から統計品目に登場した。北朝鮮では5月にコロナ患者が確認され7月に終息を宣言しているが、関連して医療関係商品の輸入金額も大きく伸びた模様だ。

## 2. 食料関係

中国から北朝鮮への「コメ HS1006」と「小麦粉 HS1101」の輸出量は、前年に比べて大幅に増加した。コメは7万4866.3トン（前年同期ゼロ）、小麦粉は5万5507トン（前年同期980.2トン）で、「トウモロコシ HS1005」は実績なしだった。ただしコメについては、10月の1万6450トンと11月の2万4573トン、そして12月の9949トンの合計5万972トンは「長粒米 HS10063020」、すなわち北朝鮮では一般的に食されていないインディカ米である。残り2万3894.3トンの輸入は「中粒米 HS10063080」であり、また2017年以降に統計上で中国からインディカ米が輸入されたことは一度もなく、これらは中継貿易による中国以外の国からの支援米であった可能性がある<sup>(iii)</sup>。それを窺わせるものとして、北朝鮮がインドの民間団体であるインド国際事業会議所（ICIB）に1万トンのコメ支援を要請したということが報じられている<sup>(iv)</sup>。また北朝鮮では8月に洪水に見舞われて農作物に被害があったことが伝えられており、中国以外にも食料支援を要請している模様だが、コロナ防疫の関係もあり中国の港を中継してそれら物資を運搬しているのかもしれない。なお、北朝鮮では安南米と呼ぶインディカ米については、1980年代後半から90年ごろに食べられていたことがあったものの、中粒米と比べてパサパサなので当時は人気がなかったことが脱北者によって語られている<sup>(v)</sup>。

## 3. 北朝鮮からの輸出品

2022年の北朝鮮から中国への輸出額も前年同期比で2.3倍と増加している。

それぞれ前年同期比で、鉱物性生產品（HS25-27類）の輸出は3.7倍、繊維製品（HS50-63類）は3.2倍、履物、帽子、かつらなど（HS64-67類）は実に31.4倍となった。取引額で上位の品目としては「タングステン鉱およびその精鉱 HS26110000」の3092万2186ドル、続いて「フェロシリコン けい素の含有量が全重量の55%を超えるもの HS72022100」の2667万5830ドル、「電力 HS27160000」の2038万6113ドル、「その他モリブデン鉱およびその精鉱 HS26139000」の1365万6668ドル、「人毛かつら、ひげ、眉毛、まつげその他の人毛製品 HS67042000」の1130万8614ドルとなっており、これら5品目だけで輸出額全体の77%を占めている。2016-17年に採択された国連安保理決議では北朝鮮の核・ミサイル開発費用を封じるため、同国の主たる外貨獲得手段となっていた鉱物資源の輸出や委託加工の繊維製品等に制裁を科した。しかしこれをかいくぐるように、中朝間では制裁対象に指定されていない鉱物やかつらの委託加工品等の取引額が増大している。

## 4. 今後の展望

中朝関係は2019年6月の習近平国家主席の訪朝以降、基本的に安定的関係を維持している。2020年と21年に両国の経済関係が振るわなかったのはコロナ要因が全てであるとみられる。ゆえに、2022年末にゼロコロナ政策から転換した中国の変化を受けて、トラック物流や人的往来が開放されると、2023年の中朝貿易はより活発な取引が展開されると考えられる。

北朝鮮は2021年にコロナ防疫のため、義州空港を改



中国・珲春の新税関施設（2018年8月、筆者撮影）

装して新しい貨物検査場を整備したことが伝えられているが、中国側でも 2022 年 9 月に北朝鮮・羅先につながる中国・琿春の通商口で、通関能力がこれまでの 3 倍となる巨大な税関施設が竣工した<sup>(vi)</sup>。コロナ前から中国が 3 億人民元を投資して建設していたものだが、検疫体制などは恐らくコロナ防疫仕様になっていると推定される。2023 年中に本格的な稼働開始となるか注目したい。

表 2021 年と 2022 年の中朝貿易比較

品目名	HSコード	輸出 (ドル)	輸出 (ドル)	輸入 (ドル)	輸入 (ドル)
		2021年1-12月	2022年1-12月	2021年1-12月	2022年1-12月
総計		<b>257,251,943</b>	<b>894,039,906</b>	<b>58,067,669</b>	<b>133,677,748</b>
動物性製品	01-05 (類)	6,981,192	4,540,209	0	0
植物性製品	06-14 (類)	7,365,437	61,234,044	2,517,525	29,903
油脂と調製食品	15-24 (類)	43,124,176	175,982,544	115,294	132,625
鉱物性生産品	25-27 (類)	6,475,239	15,003,792	17,545,689	64,964,967
化学工業製品	28-38 (類)	82,474,833	172,211,729	2,862,656	6,492,590
プラスチック、ゴム	39-40 (類)	66,621,410	179,573,370	0	24,040
原皮、革製品など	41-43 (類)	197,451	1,656,733	0	68
木材、パルプ製品	44-49 (類)	13,253,273	51,766,015	0	31,816
繊維製品	50-63 (類)	21,946,455	153,160,345	3,748,721	12,175,883
履物、帽子、かつらなど	64-67 (類)	51,818	25,685,288	372,495	11,703,430
石、セメント	68-70 (類)	4,582,244	20,444,129	0	6,728,318
貴金属、宝石	71 (類)	0	96,139	0	0
鉄鋼、金属製品	72-83 (類)	0	0	26,820,334	27,741,492
機械、電気機器	84-85 (類)	0	0	100	0
輸送機器	86-89 (類)	0	0	0	504,000
科学・精密機器	90-92 (類)	1,258,870	9,555,995	4,043,972	2,831,152
武器	93 (類)	0	0	0	0
雑品	94-96 (類)	2,919,525	23,129,574	0	301,963
芸術品	97 (類)	0	0	6,474	230
小額、携帯品	98 (類)	20	0	34,409	15,271

出典：中国税関統計（2022 年の数値は速報値）

- <sup>i</sup> 中国は北朝鮮への原油の輸出について、2014 年以降は統計に掲載していない。またそれ以外にも統計に反映していない貿易もあるとみられるが、ここではあくまで中国税関発表の公式統計の数値に依拠して分析した。
- <sup>ii</sup> ただし、圈河通商口の利用が再開されたことは『日本経済新聞』2023 年 2 月 16 日等が伝えているが、中国側で公式的には発表されておらず、中国外交部の記者会見でもこの件の確認に関する回答を曖昧にしている。「2023 年 2 月 16 日 外交部发言人汪文斌主持例行记者会」中国外交部、2023 年 2 月 16 日 ([https://www.mfa.gov.cn/web/wjdt\\_674879/fyrbt\\_674889/202302/t20230216\\_11026009.shtml](https://www.mfa.gov.cn/web/wjdt_674879/fyrbt_674889/202302/t20230216_11026009.shtml)) (2023 年 3 月 14 日最終アクセス)。
- <sup>iii</sup> 中国から北朝鮮に輸出された 10-12 月の長粒米輸出方式については、「税関特別監督管理区域物流貨物」と「保税管理監督場所輸出入貨物」とされている。中粒米も 12 月の 1217.3 トン分は「税関特別監督管理区域物流貨物」扱いである。小麦粉についても同様に「税関特別監督管理区域物流貨物」扱いのものがある。
- <sup>iv</sup> 「北韓、インドから米 1 万トン輸入推進…深刻な食糧難の可能性」『東亜日報』2022 年 8 月 29 日 (<http://www.donga.com/news/Politics/article/all/20220829/115195391/1>) (2023 年 3 月 14 日最終アクセス)、 「北韓『インドに米支援を要請』深刻な食糧難の傍証-他の友好国家にも要請の可能性」『VOA』2022 年 8 月 31 日 (<https://www.voakorea.com/a/6724781.html>) (2023 年 3 月 14 日最終アクセス)。

- 
- <sup>v</sup> 朱成河「2次北-米 頂上会談とベトナムの追憶」『RFA』2019年2月15日 ([https://www.rfa.org/korean/weekly\\_program/joosungha/co-sh-02152019091213.html/ampRFA?fbclid=IwAR2PiTFVCKsGJRan6zPLI7EfnSFvf71wg3LYCmtuVz0ph-d8SugBY-pxoUw](https://www.rfa.org/korean/weekly_program/joosungha/co-sh-02152019091213.html/ampRFA?fbclid=IwAR2PiTFVCKsGJRan6zPLI7EfnSFvf71wg3LYCmtuVz0ph-d8SugBY-pxoUw)) (2023年3月14日最終アクセス)。
- <sup>vi</sup> 「琿春鉄路口岸正式開通 “7天24小時” 通関模式」『人民网—吉林頻道』2022年9月1日 (<http://jl.people.com.cn/n2/2022/0901/c349771-40106595.html>) (2023年3月14日最終アクセス)。